A4サイズ・片面（縦向き）印刷　　１／１１枚	受験番号	※大学記入欄

探究タイプ”B”　④探究活動（成果物）の概要説明書

フリガナ	カンガク　ジロウ
氏名	関学　次郎

探究活動タイプ”B”

他者との交流や協働（例えば海外の学校等）を重視した実践活動等の探究活動

１．探究活動の成果物（提出書類『① 探究活動の成果物』で提出するもの）

種類　発表記録（ポスター・パワーポイント等）　※該当するものを選択

<上記 種類 で『その他』を選択した場合のみ（具体的に記入すること）>

成果物が掲載された媒体（媒体名、発行年、巻・号、掲載ページ、URL等含む）があれば具体的に記入すること

２．探究活動を行った主たる時間

区分　総合的な探究の時間　※該当するものを選択

<上記 区分 で『正課外活動』・『その他』を選択した場合のみ（具体的に記入）>

<上記 区分 で『正課外活動』・『その他』を選択した場合のみ、活動期間（ 西暦）を記入>

開始　　年　　月　　終了　　年　　月

主たる指導者とその属性　在籍する学校の授業を担当する教員　※該当するものを選択

<上記 属性 で『その他』を選択した場合のみ（具体的（氏名・所属・専門性・経験値等）に記入）>

３．探究活動の人数構成

人数構成　グループ　※該当するものを選択

グループの場合の構成人数　※グループの場合のみ回答　3

A4サイズ・片面（縦向き）印刷　　２／１１枚	受験番号	※大学記入欄

４．発表の機会・結果　※提出書類 ⑤発表の記録 と記載内容を合わせてください。

※それぞれの発表会区分に複数参加した場合は、最も結果の良かったものを選んでその内容を記入してください。

所属校内での発表会				参加有無	参加	学年	高校2年生
				上記「参加有無」・「学年」は該当するものを選択			
参加者数（聴衆除く）	140	表彰・順位付け有無	無	表彰・順位付け"有"の場合の結果			

他校との合同発表会				参加有無	不参加	学年	
				上記「参加有無」・「学年」は該当するものを選択			
参加者数（聴衆除く）		表彰・順位付け有無		表彰・順位付け"有"の場合の結果			

外部機関が主催する大会やコンテスト等				参加有無	不参加	学年	
				上記「参加有無」・「学年」は該当するものを選択			
参加者数（聴衆除く）		表彰・順位付け有無		表彰・順位付け"有"の場合の結果			

規模		予選有無・予選の備考		備考	

５．探究活動の目的

この探究活動の目的は、交流校との平和に関する議論と共同動画制作を通して平和について考察を深めること である。

６．探究活動のテーマおよびテーマ設定にいたった背景

テーマ　日米の高校生が考察する、「紛争のない平和な社会」とは

テーマ設定にいたった背景　**※600字以内**（半角・スペースも1文字とカウントします）

人類の歴史において、これまで環境汚染や経済不況など様々な社会問題が解決に向けて議論されてきた。地域や国家の間で繰り広げられてきた紛争も、私たちが解決しなければならない社会問題の一つである。私たちは、総合的な探究の時間に2000年以降の紛争に関連する問題提起や議論ついて調べ学習を行い、紛争を解決するための手段の一つとして、「国境を超えて皆に共通する”平和”という概念」を創り出す必要性を実感した。しかし、これまでに起こった地域・国家間の紛争の歴史から、各々に価値観があり、その価値観の不一致等が紛争に繋がっていることからも（新月　2010）、異なる文化背景をもった者同士が、平和に関する議論を行い、積極的にお互いの価値観の違いをすり合わせ、共通項を見出す必要があると考えられる。　そこで、私たちが在籍する学校の姉妹校で年間をとおして交流学習を行っているMastery Service校（米国）の同学年高校生と、”平和”について定期意見交換会を実施することとした。年間のテーマを「紛争のない平和な世界を目指して（Toward the peaceful Society without War）」に設定し、オンラインでの定期的なディスカッションを開始した。最終的には、日米間で私たちが合意した紛争のない平和な社会を実現するための３原則について協同で動画制作を行い、広く世界へ周知できるようにした

文字数カウント　**595**

A4サイズ・片面（横向き）印刷　　３／１１枚

受験番号	※大学記入欄

７．引用文献

※引用文献…自分の言いたいことを説明・証明するために他人の言葉や文章、表や図等を用いることを引用といい、その元の文献のこと

【引用文献】 ※探究活動を行った中で重要となる主要な引用文献を最大５つ選択して記入してください。

1	著者名	M.Kangaku		発行年（西暦）	2000　年
	タイトル	World Wide Conflict in the Global Siciety.			
	媒体名	The Journal of the Conflict in the World Vol.10	ＵＲＬ		
2	著者名	関学花子		発行年（西暦）	2020　年
	タイトル	対話を通した異文化理解の理論			
	媒体名	クレセント出版	ＵＲＬ		
3	著者名	関学太郎		発行年（西暦）	2021　年
	タイトル	対立する意見．政府間の駆け引き長引く			
	媒体名	KG新聞 ５月26日朝刊	ＵＲＬ		
4	著者名			発行年（西暦）	年
	タイトル	2000-2020　紛争マップ			
	媒体名	外務省　世界の紛争データ	ＵＲＬ	www.gaimusho.com	
5	著者名			発行年（西暦）	年
	タイトル	History of Conflicts Around the World 2020			
	媒体名	The United Nations World Database	ＵＲＬ	http:around//.jp	

A4サイズ・片面（縦向き）印刷　　４／１１枚

受験番号	※大学記入欄

７．引用文献

※引用文献…自分の言いたいことを説明・証明するために他人の言葉や文章、表や図等を用いることを引用といい、その元の文献のこと

	７．に記載した全ての主要文献について、本探究活動における資料内容の位置付けをそれぞれの引用文献ごとに解説してください。 ※本探究活動において、引用した文献の知見がなぜ必要なのか解説する。 ※入力にあたり「A列」の番号が対応するようにしてください。（例：シート「7-1.」『１』（A列、７・８・9行目）に入力した文献については、シート「7-2」A列、4行目の『１』の欄に解説を入力すること）
1	※記入例なし
2	
3	
4	
5	

A4サイズ・片面（横向き）印刷　　５／１１枚　**※活動がない場合は空欄で印刷して提出すること**

受験番号	※大学記入欄

８．他者との交流や協働を通した実践活動

※探究活動で実施した他者との交流や協働の中で重要かつ主要なものを４つを選択して記入

1	形態	国際交流	※該当するものを選択	『その他』を選択した場合のみ具体的に記入		実施方法	オンライン
	期間	開始　2021　年　4　月		終了　2021　年　8　月	場所（対面実施時のみ）		
	目的	電子掲示板上での交流を通して、平和に関する議論を焦点化すること					
	誰と	米国カリフォルニア州立　Mastery Service高校のGrade11 （生徒約150人）					
	内容	私立クレセント高校のクラス40名とMastery Service校のクラス35名のメンバーで電子掲示板を共有し、自己紹介や日常生活で起こったことなど、アイスブレイキングに繋がるコミュニケーションを取った。5月以降は徐々にテーマを平和に焦点化していった。５月半ばからは、平和に関する任意に設定されたトピックについて、任意のペースで議論を継続的に行った。　6月～8月は２カ月間の電子掲示板上での議論を振り返り、両校にとってどのようなテーマを設定することがより深い学びに繋がるのかを電子掲示板上で議論した。また、9月に開催するZOOMを用いたオンライン交流会のプログラムの内容、準備等についても並行して話し合いを行った。交流会の内容については電子掲示板では時間がかかるため、任意で設定したZOOMでのテレビ会議を複数回開催した。					
	『① 探究活動の成果物』での言及箇所（●枚目の●段落目 など）	発表スライド P.1					

A4サイズ・片面（横向き）印刷　6／１１枚　**※活動がない場合は空欄で印刷して提出すること**

受験番号	※大学記入欄

8．他者との交流や協働を通した実践活動

※探究活動で実施した他者との交流や協働の中で重要かつ主要なものを４つを選択して記入

2	形態	国際交流	※該当するものを選択	『その他』を選択した場合のみ具体的に記入		実施方法	オンライン
	期間	開始　2021　年　9　月		終了　2021　年　9　月	場所（対面実施時のみ）		
	目的	ZOOMを用いたテレビ会議にて、平和に関する議論を行う					
	誰と	米国カリフォルニア州立　Mastery Service高校のGrade11 （生徒約150人）					
	内容	私立クレセント高校の生徒5名とMastery Service高校の生徒5名の計10名1グループを作成し、ZOOMを用いたグループディスカッションを2021年9月10日に行った。言語は全て英語を用いた。また、ZOOMに加えてGoogle Driveを電子掲示板も補助資料として用いた。　午前の部では、各グループで主に平和の定義付けを行った。紛争に関する資料を共有し、紛争のない「平和な状態」とはどのような状態を意味するのかを定義した。午後の部では、各グループで定義した平和な状態を実現するためにできることについて各グループで議論を行った。異なる観点からの提案を最低２つは盛り込むという制約を設け、アイディアについて議論した。午後の部の最終セッション（90分）では、GoogleDrive上で発表スライドを共有しながら自分たちの議論した内容を説明するための資料を共同制作した。					
	『① 探究活動の成果物』での言及箇所（●枚目の●段落目 など）	発表スライド P.4					

A4サイズ・片面（横向き）印刷　　７／１１枚　**※活動がない場合は空欄で印刷して提出すること**

受験番号	※大学記入欄

８．他者との交流や協働を通した実践活動

※探究活動で実施した他者との交流や協働の中で重要かつ主要なものを４つを選択して記入

3	形態	国際交流	※該当するものを選択	『その他』を選択した場合のみ具体的に記入		実施方法	オンライン
	期間	開始　2021　年　10　月		終了　2022　年　2　月	場所（対面実施時のみ）		
	目的	平和を実現するための原則に関する動画クリップを作成する					
	誰と	米国カリフォルニア州立　Mastery Service高校のGrade11 （生徒約150人）					
	内容	２のグループメンバーで継続的に電子掲示板を用いた議論を行い、紛争のない平和な社会を実現するための方法について考察を深めた。電子掲示板上の議論とZOOMを用いたテレビ会議を2021年11月末まで進めた。総合的な探究の時間のみで議論を深めることは困難であったため、電子掲示板とZOOMを任意で授業時間外に活用した。スケジュールや議題は全て自分たちで話し合い決定した。　2021年12月頭からは、「紛争のない平和な社会を実現するためには」という共通テーマの下、各グループがサブテーマを設定し、共同で動画制作を行った。動画には（１）それぞれの国で撮影した生活の様子、（２）それぞれの国でインタビューした現地の人々の声を含めることと「差別的な表現、暴力的・過度に性的な表現」を一切含めないというルールに基づき、それぞれが平和を実現するための３原則について動画で提言した。					
	『① 探究活動の成果物』での言及箇所（●枚目の●段落目 など）	発表動画クリップ資料					

A4サイズ・片面（横向き）印刷　　８／１１枚

※活動がない場合は空欄で印刷して提出すること

受験番号	※大学記入欄

８．他者との交流や協働を通した実践活動

※探究活動で実施した他者との交流や協働の中で重要かつ主要なものを４つを選択して記入

4	形態		※該当するものを選択	『その他』を選択した場合のみ具体的に記入		実施方法	
	期間	開始　　年　　月		終了　　年　　月	場所（対面実施時のみ）		
	目的						
	誰と						
	内容						
	『① 探究活動の成果物』での言及箇所（●枚目の●段落目 など）						

A4サイズ・片面（縦向き）印刷　　9／１１枚

受験番号	※大学記入欄

9. 分析・考察結果

※2100字以内（半角・スペースも1文字とカウントします）

※記入例なし

文字数カウント　　0

A4サイズ・片面（縦向き）印刷　　１０／１１枚

受験番号	※大学記入欄

10. 探究活動を通して「学んだこと」　**※500字以内（半角・スペースも1文字とカウントします）**

※記入例なし

文字数カウント　**0**

11. 探究活動を通じて得た経験を踏まえて、出願する学部（学科・課程・専修・コース）を志望する理由を述べてください ※800字以内（半角・スペースも1文字とカウントします）

※経験とは、探究活動で取り組んだ分野や内容自体の「学び」だけでなく、 探究活動を通じて得た「学び」や「プロセス」を踏まえて記載してもよい

※記入例なし

文字数カウント　**0**

A4サイズ・片面（縦向き）印刷　　１１／１１枚	受験番号	※大学記入欄

12.11の内容以外で、大学入学後にどのような学びを実現したいのかを解説してください

※800字以内（半角・スペースも1文字とカウントします）

※記入例なし

文字数カウント　**0**